

## 病害虫発生予察特殊報 第1号

作物名：キク  
病名：キク茎えそ病  
病原ウイルス：*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)

### 1 発生確認経過

2011年5月、県内中信地域のキク栽培ほ場において、葉や茎にえそ症状を伴う被害株が発生した。病徴からウイルス病が疑われたことから、農業改良普及センターでは、トマト黄化えそウイルス(TSWV)、インパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)、キュウリモザイクウイルス(CMV)の3種のウイルスについて、迅速免疫濾紙検定法(RIPA法)で検定したが、いずれも陰性であった。

被害株は既知のトスポウイルスによる病徴に酷似していたので、引き続き県野菜花き試験場で逆転写ポリメラーゼ連鎖反応法(RT-PCR法)による遺伝子診断を実施したところ、キク茎えそウイルスが検出された。

本病は、国内では平成18年に広島県で初めて確認され、現在までに東北から九州地方までの19県で発生が報告されている(表1)。

### 2 病徴及び被害

本病は、茎に明瞭なえそ斑を生じ、葉にも退緑、黄化、えそを生じる(図1、2)。

なお、本病は平成9年に本県で発生したトマト黄化えそウイルス(TSWV)によるキクえそ病と酷似しており、病徴による識別は困難である。

### 3 病原菌と発生生態

- (1) 病原ウイルスは、ミカンキイロアザミウマによって媒介される。
- (2) 本媒介虫のミカンキイロアザミウマは、1齢幼虫期に感染植物を吸汁することで病原ウイルスを獲得する。その後、健全植物を吸汁することでウイルスが伝搬する。
- (3) 経卵伝染(保毒雌成虫から次世代にウイルスが伝染すること)はないが、保毒虫は永続的に伝搬する。
- (4) 感染株を親株として採穂すると、汚染苗としてウイルスを伝播する。
- (5) 本ウイルスは、種子伝染および土壌伝染はしない。
- (6) キク以外では、トマト、アスター、トルコギキョウへの感染が報告されている。

### 4 防除対策

- (1) 媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。
- (2) 施設開口部へ防虫ネット(0.4mm目以下が望ましい)を設置し、ミカンキイロアザミウマの逃亡・侵入を防ぐとともに、薬剤防除を行い保毒虫の施設外への逃亡を防ぐ。
- (3) アザミウマ類は、ほ場によって薬剤感受性が異なることがあるため、薬剤散布後は必ず効果を確認する。
- (4) 発病株は見つけ次第、ビニール袋に密閉するなどして、保毒虫の逃亡を防止してからほ場外に持ち出し、そのまま密閉した袋ごと数日間日中の太陽熱を利用して処理するなど、適正に処分する。

- (5) 発生ほ場の株は、健全に見えても親株にせず、必ず未発生ほ場の健全株を採穂に用いる。
- (6) ほ場内や周辺の雑草は、媒介虫の増殖及び伝染源となるので、除草を徹底する。

## 5 その他

発生ほ場では、県外から感染した苗が導入されたが、他に拡大した形跡が認められないので、現在、拡大阻止と終息するための対策を実施している。

県内での発生は、県外の既発生地域から感染苗としてウイルスが侵入する可能性が最も高いので、苗の購入には注意が必要である。



図1 ほ場における CSNV によるキク茎えそ病の病徴



図2 CSNV により茎に生じたえそ斑と葉の黄化

表1 既発生県

県別	初発年	病名
秋田県	2008	キク茎えそ病
宮城県	2010	キク茎えそ病
栃木県	2007	キク茎えそ病
茨城県	2008	キク茎えそ病
千葉県	2007	キク茎えそ病、2009 トマト茎えそ病(仮称)
群馬県	2007	キク茎えそ病、2008 トマト茎えそ病(仮称)
富山県	2009	キク茎えそ病、トマト茎えそ病(仮称)、アスター茎えそ症、トルコギキョウ茎えそ症
愛知県	2009	キク茎えそ病
三重県	2010	キク茎えそ病
兵庫県	2009	キク茎えそ病
広島県	2006	キク茎えそ病
島根県	2008	キク茎えそ病
山口県	2010	キク茎えそ病
徳島県	2009	キク茎えそ病
香川県	2009	キク茎えそ病
福岡県	2010	キク茎えそ病
宮崎県	2010	キク茎えそ病
熊本県	2008	キク茎えそ病
鹿児島県	2009	キク茎えそ病、2011 トマト茎えそ病(仮称)

長野県病害虫防除所  
 所長：飯島 章彦  
 担当：南島 誠・嵯峨 裕之  
 TEL: 0263-53-5642 (直通)  
 FAX: 0263-54-4508  
 E-mail: bojo-y@pref.nagano.lg.jp